

海事資料 FAX 短信

Vol.124 2007.7.15

(財)日本海事広報協会・海事情報部 TEL 03-3552-5035 FAX 03-3553-6580
ホームページアドレス <http://www.kaijipr.or.jp/> E-mail jo-ho@kaijipr.or.jp

このFAX短信は、海運、造船、港湾、港運など海事関係団体が、最近発行した機関誌や海事関係資料、海事団体のイベント情報などをご紹介します。機関誌や海事資料は、当会海事情報部で供覧しておりますので、ぜひご利用下さい。

* 機 関 誌 ・ 広 報 誌 *

7月16日は「国土交通Day」
「国土交通」6月号 運輸振興協会

今年の7月16日は、祝日「海の日」であるとともに「国土交通Day」でもある。「人々の生き生きとした暮らしと活力ある経済社会」などをめざす、国土交通行政を知ってもらおうのが目的で、平成13年から毎年、同省と関係法人が行事を実施。 03-3221-8432

みなとの偉人たち「稲葉三右衛門」
「港湾」6月号 日本港湾協会

明治5年～17年、四日市築港に私財をなげうった男がいた。廻船問屋の稲葉三右衛門で、当時の国の土木決算額が18万円の頃、20万をつぎ込んだ。オランダ人技師の下で築港技術を学び、長さ356mの堀割を挟む両側46千㎡を埋立、波止場を設けた。 03-5549-9575

キッズ・クルーズを紹介
「えちか」Vol.14 商船三井

標題は、商船三井が海運という事業領域に根ざした社会貢献として展開している活動の一つで、全国の小学生から海や船についての作文・絵画を募集し、抽選で小学生と保護者150組300人を1泊2日の日本丸のクルーズに招待する行事だ。 03-3265-9691

新規人材育成で造船集積地域自治体首長会議開催
「中小型造船」No.372 日本中小型造船工業会

造船技能開発センターで実施中の造船分野の人材育成事業は平成19年度で終了し、同20年度以降現行事業を進化させた、新規の人材育成事業が始まる。今年度中に造船事業者・自治体関係者のニーズを把握するため今治市で標記会議を開催。 03-3502-2965

海難残骸物除去に関する新条約採択される
「せんきょう」6月号 日本船主協会

標記国際条約が、ケニア・ナイロビで本年5月開催された外交会議で採択された。最大の争点である条約の適用範囲については、締約国の任意で排他的経済水域などにある海難残留物にまで拡大を可能にする規定の導入を合意した。 03-3264-7181

海保の体制強化急務
「海上保安新聞」第2813号 海上保安協会

国土交通省は、海洋基本法に基づき策定する海洋基本計画を検討する海洋・沿岸域政策懇談会を6月中開催した。会では「海上保安庁を人、物(巡視船艇・航空機)両面で充実すべき」、「体制整備だけでなく、法整備も必要」などの意見が出された。 03-3297-7580

巡回検診車が行く
「船員ほけん」No.634 船員保険会

船員保険会(SENPOS)芝浦健康管理センターの巡回検診車が、茨城県のみき網漁船船員の健康診断を行った。マイワシやマサバの「漁の休み」に実施。スタッフ12人で朝7時から始め、船員99人が計測や採血に並んだ。「待たされないのが助かる」との声もあった。 03-3407-6064

海の大変動
「Blue Earth」5-6月号 海洋研究開発機構

世界の科学者たちが温暖化研究の最新成果をまとめた政府間パネル(IPCC)「第4次評価報告書」が発表された。地球温暖化の進行により、北極海の氷がなくなる？洪水の被害が多発する？海流の大循環が弱まり氷期が訪れる？など予測される現象を紹介。 045-778-5440

「につけん」第539号 日本貨物検数協会
平成19年度中央安全衛生委員会開催 03-3502-2231

「品管時報」6月号 日本船舶品質管理協会
省資源・省エネへのささやかな試み 03-3553-4095

「海外運輸」No.164 海外運輸協力協会
平成18年度国庫補助事業終了報告 03-5640-0373

「ムルガジン」6月18日号 日本マリナビチ協会
海岸管理及び利用活性化研究会 03-3222-3734

「海っこ」第568号 海洋会
 千葉県にきさらづ海洋少年団発足 03-3553-1818
 「マリエンジニア」No.726 日本船舶機関士協会
 故障例 主機軸受け損傷ほか 03-3264-2518
 「SEA-Japan」No.323 日本船舶輸出組合
 700トNLNGタンク据付(三井千葉・写真付) 03-3508-9661

「SRC News」No.72 日本造船技術センター
 トリマランの水槽試験 03-3868-7122
 「CDIT」Vol.22 沿岸技術研究センター
 沿岸域技術の課題と展望 03-3234-5861
 「日造協」第394号 日本造船協力事業者団体連合会
 原点に立ち返り労働災害の撲滅を 03-5510-3161

* その他海事資料 *

海難レポート2007

「特集 多発する外国船海難」

海難審判庁

日本籍外航船が減少し、外国籍船が増加する中、外国籍船については、船舶所有者、運送事業者、船舶管理会社、乗組員の国籍が多数の国にまたがるなど、複雑多様化する状況にある。昨年は、急速に発達する低気圧の影響により鹿島港沖で、外国貨物船が乗り揚げた全損となり、乗組員10人が死亡・行方不明、油が流出するなどの深刻な海難

も発生した。本レポートでは、このような状況を踏まえ、外国船海難を特集し、最近の外国船が関連する海難事件とその原因究明に不可欠な国際調査協力の推進について紹介する。

外国船海難は、平成18年に168件発生しているが、海難全体に占める割合は4%と発生率は低いものの、主要海難(死亡・行方不明が5人以上、船舶が全損となったものなど)に占める割合は、14件・47%と半数近くに達し、重大な海難に結びつく現状にある。

(高等海難審判庁 03-5253-8821)

* 海のイベント情報 *

「海フェスタなごや～海の祭典2007～」を開催

海フェスタ推進委員会

名古屋港開港100周年を記念して、名古屋市を中心に「未来へ、世界へ、港なごや夢交流」をテーマに記念式典・祝賀会・シンポジウムをはじめ、海や港の体験学習、マリン・ビーチスポーツ、海や港のフェスティバルなどの多彩なイベントが開催されます。

開催期間は、7月14日(土)から7月22日(日)までで、場所は、名古屋港ガーデン埠頭、金城埠頭、新舞子マリンパークなどです。

このうち、いくつかを紹介します。

子どもマリンフェスティバル

7月16日(月・祝)名古屋港湾会館で、「今日から描く、あたらしい100年」をテーマに、行われる。呼び物は「アグネス・チャンの子どもシンポジウム」。歌手で教育学博士のアグネス・チャンが「らめーる日本大使」として、コーディネーターとなり、小学生のパネリストたちと、環境と海の恩恵について語り合う催しです。ほかに、「海の物語読み聞かせ」、「人形ミュージカル」、「ちびっこ合唱コンクール」、「キッズクイズ大会」、「海の映画会」などが多彩に行われます。

マリンフェスティバル

7月22日(日)に名古屋港ガーデン埠頭「つどいの広場」で開催される、有名ミュージシャンによる無料野外ライブ。

海の総合展

7月14日(土)～7月22日(日)も名古屋ポートビル・南極観測船「ふじ」をパビリオン化し、国、地方の海事関係機関及び団体が一堂に会して、海や日本一の貨物取扱量・外国貿易額を誇る名古屋港におけるそれぞれの業務の役割をブース内で紹介。他に体験教室や海洋環境などが学べる。

シンポジウム

7月14日(土)名古屋港湾会館の各会議室で、著名人を招聘しての基調講演、港町デザイン、海洋環境等の各ジャンルから分科会方式で講師、参加者が語り合う。

第61回名古屋みなと祭

7月21日(土)名古屋港ガーデン埠頭一帯で行われる恒例の夏祭り。3,000発の花火で港の夜空を彩る。

練習船のセイルドリル・一般公開

航海訓練所の練習船「海王丸」「青雲丸」が期間中寄港し、一般公開を行う。天候次第で、セイルドリルも。

問い合わせ 052-654-8072

「FAX短信」についてのアンケートにご協力下さい。

アンケートは当協会ホームページ(<http://www.kaijipr.or.jp>)の「書籍販売」をクリックし、その中の「FAX短信」の欄にあります。